

神奈川県徐福研究会

TVドラマ 「徐福東渡」(仮) 製作班 日本各地で取材

約2200年前に中国・

秦の始皇帝の命で不老長寿の仙薬を求めて日本に來たとの伝説が残る徐福が、中国でテレビドラマ化されることになりました。この製作グループがロケ地の下見のため1月18日に來日し、佐賀市、八女市、新宮市、富士吉田市などの日本各地の徐福伝説地を取材しましたが、1月28日、神奈川県藤沢市内の妙善寺を訪れました。ここには天文廿三年(1554年)日付で徐福の子孫であることが刻まれ



藤沢市内の明善寺での取材

た墓碑が残されています。神奈川県日中友好協会に所属する神奈川県徐福研究会は、田島孝子会長など3名の会員で、石碑に書かれている文字を解説するなどの対応を行いました。

一行は、「三国志」「水滸伝」等を手掛けた張紹林監督、今回始皇帝の役を演ずる香港の有名なスターである劉永氏(本名劉添爵)、監修者として日中文化の専門家である王智新氏など総勢11名の大部隊です。

撮影は今年5月から開始し、2017年春から、一話45分、全60話の長編ドラマとして中国で放映予定です。日本語版DVDも発売されるといわれています。

徐福は歴史上の人物ですが、日本に來たことについては、伝説の域を出ていません。しかしその伝説の中で、徐福は平和的に農業、機織りなどの新しい技術を伝えるなど、日中の文化交流に貢献したとされ、日中友好のシンボルとなっています。

徐福は韓国を経由したとの伝説が、韓国に残っています。

ますが、現在、日中韓の徐福研究団体が共同で、三国に残る「徐福文化」を世界遺産に登録しようと動き始めました。

徐福を通じ、改善のきざしがある日中韓の友好をさらに促進していきたいと思っています。

(会員 伊藤健二)

日中友好神奈川県 婦人連絡会

新年のつどい

賑やかに・・・

1月23日(土)、日中友好神奈川県婦人連絡会(婦連)は新春のつどいを中華街「桂宮」で行いました。参加者は27人、女性の会らしくアットホームな雰囲気です。新年をお祝いしました。

まず、若林昌共同代表が挨拶。今年は来賓として横浜華僑婦女会副会長陳碧蓮様、横浜華僑総会副会長楊文恵様、神奈川県日中友好協会副会長上島保則様、神奈川県議会日中友好議員連盟会長森正明様にお越し頂き、それぞれ友好を深め発表させていききたいとご祝

辞。

さらに、県日中女性部会長田島孝子様、民主党神奈川県議会議員団の日下景子様もご出席、ご祝辞を頂きました。また、横浜国立大学在学の中国人留学生4人をご招待、上手な日本語で自己紹介、日本の良さとこれからも日中友好のために尽くしたいと述べました。

美味しい料理とお酒が入り、留学生が「草原情歌」「海はふるさと」「幸せなら手をたたこう」を中国語で歌ってくれました。草原の広がりや海の深さを感じました。さらに会員の河合美千世さんが留学生に頭巾をかぶせ、玉すだれを渡して、「南京玉すだれ」のワークショップ、その雰囲気作りは素晴らしく、留学生は歌に合わせて玉すだれを伸ばして釣りざお、輪にしてお月さま、魚、門と変化させ、初めてとは思えないほど上手に操っていました。

今年の新年会には県日中の地域日中の代表の方々も参加され、交流ができました。このような小さな交流ですが、続けていくことで

播いた種から芽がでていつしか、花が咲くことを心願いました。

婦連は昨年40周年を迎え、記念誌を刊行、神奈川県内の女性の友好団体として、「友好・平和・女性」のスローガンの元、日中女性の友好交流、相互理解をめぐりして訪中団派遣や留学生との交流、バザー、講座など行っています。

また、4月には横浜日中友好協会のご協力を得て、長野県阿智村にある満蒙开拓平和記念館の見学を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

(番場明子)

